

科目名	人間文化入門			科目コード	0010		
英文名	First-Year Experience			科目区分	【共通教養科目】 基礎科目(必修)		
担当教員	梶原 健嗣 他		教員コード	145	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	大学生の初年次教育として、様々なテーマで大学生活を有意義にするためのスキルを教授する。各回ごとに担当が違う“オムニバス形式”の講義となる。						
授業の狙い・到達目標	高校までの教育と違い、大学教育では主体的に学び、探求する姿勢が重要となり、意識の転換が必要になる。そうした転換を支えるために行う初年次教育として、人間文化入門が位置付けられている。各教員が提示する様々な事項を吸収し、「主体的な学び」の基礎を培うことを目標とする。						
授業内容のレベル・関連科目	初年次教育であり、内容的な基礎的なことからである。しかし、基礎にこそ事物の本質がある。1つ1つの講義を疎かにせず取り組むこと。関連科目は、本学が提供する全講義科目である。						
授業外学習(予習・復習)	履修案内や大学案内、シラバスをしっかりと読み、本学の教育体系を把握する。今後の4年間がどのような学習になるのかを把握することが予習・復習となる。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	特になし。 担当教員より、レジュメ等が配布されることがある。						
参考書・その他教材	特になし。 担当教員より、レジュメ等が配布されることがある。						
課題に対するフィードバック	オムニバス形式であり、各回ごとに対応は異なる。担当の教員に指示に適切に従うこと。						
成績評価方法	授業への貢献度を平常点として評価(30%)、また第8～9回講義に相当する歴史民俗博物館の見学レポート(70%、見学を中止する場合には代替案を講義中に提示する)で評価する。						
成績評価基準	本学の学業成績判定に関する基準に照らし、評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	本講義は大学生活を円滑にスタートさせるために不可欠な初年次教育科目であり、高い目的意識をもって本講義に臨むことを期待する。						
科目に関連した教員の実務経験	なし						
担当教員への連絡方法	代表して、 kajiwara@aikoku-u.org						

授業スケジュール

人間文化入門

1回	学習内容 予習 復習	担当・梶原、本講義のガイダンス&本学の教育体系の説明 本講義のシラバスをよく読み、全15回の内容を事前に把握しておくこと。 本学の教育体系の部分をしっかりと復習すること。「履修案内」も参照すると、より良い。
2回	学習内容 予習 復習	担当・太田和、単位制度の意味、時間外学習の方法など大学での学習のあり方について 「履修案内」中の単位制、学内マナーに関する説明、規則などを熟読し、理解しておくこと。 授業内容を振り返り、大学における学習の在り方についてさらに理解を深めること。
3回	学習内容 予習 復習	担当・日坂、インターネットを用いた情報検索方法、情報リテラシーの基礎等を学ぶ。 「ICTシステム・機器利用の手引き 2021」を熟読して理解し、質問をまとめておくこと。 講義中で指示する情報源より、統計情報等を検索して入手、保存、管理、提出する。
4回	学習内容 予習 復習	担当・図書委員長、図書館の利用の仕方、文献の探し方 実際に図書館を訪れてみること。 履修前は知らなかった事項につき、実際に図書館を利用してみること。
5回	学習内容 予習 復習	担当・赤羽根、ライフプランを作成して、仕事を通じて形成されるキャリアについて考える。 現在、興味のある職業について、その仕事内容と必要な資格などを調べておくこと。 授業内容(人生とキャリア)について振り返り、目標達成のための計画を実践していくこと。
6回	学習内容 予習 復習	担当・佐久間、充実した大学生活を過ごすためのポイントを学ぶ。 履修案内の「学生生活の心得」を読んでおくこと。 授業で紹介されたことを、実際の生活に当てはめて活かす。
7回	学習内容 予習 復習	担当・中村、北総地域の歴史と文化 事前に配付するレジュメをよく読んでおくこと。 授業を振り返り、レジュメを見直すこと。
8回 ・ 9回	学習内容 予習 復習	国立歴史民俗博物館への見学。教務委員会で引率する。 日本の歴史または、千葉県の歴史について事前学習しておくこと。 歴博案内の紹介動画が最も効率的な事前学習となる。 見学を踏まえて、レポートを完成させること。 また見学のなかで興味を持った事項について、学習を深めること。
10回	学習内容 予習 復習	担当・部田、国語教育と日本語教育 自分の経験してきた日本語(または国語)教育について振り返ってみておくこと。 国語教育と日本語教育の違いについて理解したことを生かし、大学での語学授業に臨むこと
11回	学習内容 予習 復習	担当・清水、日本語力をいかに磨くか。その理論と実践スキル 日本語力とは何か、日本語力を磨くにはどうしたらいいのかについて、予め考えてくること。 講義・配布資料をヒントに、日本語力を磨くための具体的な方法を考え、実行すること。
12回	学習内容 予習 復習	担当・山崎、レポートの書き方①、トピックセンテンスを展開させてパラグラフを立てる。 文章の書かれ方を学ぶために、新聞記事を読んでおく。 授業で提示したテーマについて、パラグラフを立てる練習をする。
13回	学習内容 予習 復習	担当・栗林、大学レベルのレポートを書くための基本的なレポートスキル 前回の講義内容をよく復習し、これまでの自分のレポートの書き方の欠点をチェックする。 講義を踏まえて、実際にレポートを書いてみる。
14回	学習内容 予習 復習	日本理解専攻および心理・生活専攻の説明【各専攻・所属教員】 履修案内や大学案内をよく読み、各専攻の特徴・教育の狙いを把握しておくこと。 説明を踏まえ、各専攻が自分にあっているかを検討し、半年後の専攻選択の基礎とすること。
15回	学習内容 予習 復習	地域共生専攻およびビジネス専攻の説明【各専攻・所属教員】 履修案内や大学案内をよく読み、各専攻の特徴・教育の狙いを把握しておくこと。 説明を踏まえ、各専攻が自分にあっているかを検討し、半年後の専攻選択の基礎とすること。

科目名	現代と人間			科目コード	0020		
英文名	Introduction to Contemporary Society Studies			科目区分	【共通教養科目】 基礎科目(必修)		
担当教員	原島 雅之	教員コード	142	単位数	2単位		
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・4時限	授業形態	講義		
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
		5.学習の過程で発見した課題を探索する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	人類における進化の歴史に関して、生物学的側面や心理学的側面について学ぶとともに、文化や社会がどのように形成され、現代に至っているのかについて学ぶ。						
授業の狙い・到達目標	人類の起源(ルーツ)について知り、他の動物とどのような点で異なる進化を遂げてきたのかを考えることで、人間としての自分を捉え直すことを目指す。また、人間にとって不可欠である社会や文化がどのように形作られてきたのかを学ぶことで、現代社会における様々な問題や将来の社会に対する展望について考える力を養う。						
授業内容のレベル・関連科目	1年次生を対象とした必修の基礎科目であることから、内容については基本的に初学者向けになるべく平易な解説を行う。						
授業外学習(予習・復習)	自分自身を含め、「人間」やそれをとりまく「社会」というものがどういうものかについて日頃から関心を持ち考えておくこと。毎回の授業内容を振り返り、自分なりの要約(まとめ)を行っておくこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	特に使用しない。毎回の授業の際に資料を配布する。						
参考書・その他教材	ジョン・H・カートライト(著)、鈴木光太郎・河野和明(訳)『進化心理学入門』新曜社 ジャレド・ダイヤモンド(著)、倉骨彰(訳)『銃・病原菌・鉄—1万3000年にわたる人類史の謎』草思社						
課題に対するフィードバック	小テストおよび小レポート等についてのフィードバックは各回の授業において適宜行う。						
成績評価方法	定期試験(40%)、レポート(30%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日頃から社会の諸事情に関心を持つことが求められる。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	harashima@aikoku-u.org						

授業スケジュール

現代と人間

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス—授業の目的や進め方などについて シラバスを読み、授業の概要等について確認しておくこと 授業の目的や内容について自分なりに整理し、その後の学習の心構えを作っておくこと
2回	学習内容 予習 復習	生物における進化のメカニズム—自然淘汰と進化的適応 生物の進化について自分なりに調べ考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
3回	学習内容 予習 復習	人類の進化の背景—気候変動、動物の分類と比較 気候区分や動物の分類について自分なりに調べておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
4回	学習内容 予習 復習	動物としての「ヒト」—身体・行動・社会構造 動物と異なる人間の特徴について考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
5回	学習内容 予習 復習	脳と知能の進化—脳の大きさリスク、知能の起源 知能や頭の良さとはどのようなものか自分なりに考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
6回	学習内容 予習 復習	「心」の進化—感情の不偏性、性的魅力と進化、心の病と進化 人間の感情のはたらきについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
7回	学習内容 予習 復習	「文明」の誕生—1万3000年前のスタートライン 人類の「文明」や「社会」とはどのようなものか自分なりに考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
8回	学習内容 予習 復習	地理的環境と人類社会—人口密度、環境の違いと社会の分化 「人口密度」について調べ、それが人間や社会にどのような影響を与えるか考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
9回	学習内容 予習 復習	食糧生産と人類社会—食糧生産の発祥と地域差 人類の食糧にはどのようなものがあるか考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
10回	学習内容 予習 復習	病原菌と人類社会—進化の産物としての病原菌、感染症と都市 人類において流行した感染症について調べておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
11回	学習内容 予習 復習	「文字」の発明—文字の誕生と伝播 人類はなぜ「文字」を必要としたのか考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
12回	学習内容 予習 復習	「道具」の発明—技術の受容と社会、技術の伝播 人類社会に大きな影響を与えた「発明」は何か考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
13回	学習内容 予習 復習	平等な社会から集権的社会—一部族社会と首長社会、宗教と国家 集団におけるリーダーの機能や役割について考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
14回	学習内容 予習 復習	民族の移動と衝突—定住と拡散、紛争と征服 民族同士の「争い」はなぜ生じるのか考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
15回	学習内容 予習 復習	まとめ—現代の社会と人間 ここまでの学習内容を自分なりに整理しておくこと 学習した内容をふまえ、今後学習を深めたいテーマやトピックについて考えること

科目名	自然科学と人間（現代科学入門）			科目コード	0030		
英文名	Introduction to Contemporary Sciences			科目区分	【共通教養科目】 基礎科目（必修）		
担当教員	日坂 彰		教員コード	137		単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	現代社会は科学技術によって支えられている。人類の発展は知識の集積で発展してきた。新知見や法則、原理の発見がどの様に社会を変えてきたのか、この授業は科学史を俯瞰し、主要な発明がどのような経過で誕生し、それが社会にどのような発明の連鎖と波及効果を生んだのかを学習する						
授業の狙い・到達目標	自然科学は、自然に属する様々な対象を取り扱いその法則性を明らかにする学問である。この授業では、科学の発展と社会の発展についてその経過を理解できることや、科学史についての理解を深めることを目標とする。主要な発明や社会への波及効果を説明できる知識を涵養、また科学の光と影について理解できるようにする。						
授業内容のレベル・関連科目	日常生活の中では原理の発見・発明から様々な改良が成された結果、商品化がなされている。どの様な科学技術が導入されたのか商品になったのか常にに関心を持ち科学を探究する心がけが大切である。現代の科学、環境科学概論を併せて学習することを推奨する。						
授業外学習（予習・復習）	科学史を復習し、年代別の主要な科学者と発明について復習する。教員が提示する予習項目は必ずノートに記録し学習しておくこと。毎回の小レポートの課題はノートに記録し、予習・復習に使用することを推奨する。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	教科書は使用しない						
参考書・その他教材	小山慶太『科学史年表』中公新書						
課題に対するフィードバック	毎回の授業で小テストを行い、次週の授業で解答を解説する						
成績評価方法	定期試験（40%）、レポート（30%）、授業への貢献度（30%）で総合的に評価する						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規定に基づき評価する						
履修上の注意事項や学習上の助言	授業中に科学技術関連や環境関連の技術用語が多数使用されるので、ネット上の環境用語辞典や科学技術用語辞典等で予習復習を行い、ノートに記録すること。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける（machida@aikoku-u.org）。メールの件名に科目名、学籍番号を記載し、本文に質問内容を簡潔に記載すること。						

授業スケジュール

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス、科目「自然科学と人間」の概要説明、自然科学とは何か。 シラバスを読み、授業の概要について概ね理解しておくこと。 授業の目的、授業の進め方等を振り返り、到達目標を理解し次週からの授業に備える。
2回	学習内容 予習 復習	自然科学の対象、自然と人間の共生、生物多様性や持続的社会への展望。 教員から提示された予習項目を書籍や資料で調べておくこと。生物多様性について予習すること。 授業中の重要項目は専用ノートを用意し、記録し復習すること。生物多様性の重要性について復習。
3回	学習内容 予習 復習	地球史と人類史、農耕文化と自然科学の誕生(1)、農耕文化と自然科学。 教員から提示された予習項目を教科書で予習すること。農耕文化と道具の発明などについて予習。 狩猟採集から定住農耕生活への移行と道具の変化について復習すること。
4回	学習内容 予習 復習	地球史と人類史、農耕文化と自然科学の誕生(2)、人類の進化と知の集積。 教員から提示された予習項目を資料で予習し、言葉と文字の発明と知識の伝達について予習する。 定住農耕社会と食料生産のための自然科学について復習すること。
5回	学習内容 予習 復習	4大文明と栽培作物、食の科学、野生種から栽培作物へ品種改良の科学史。 教員から提示された予習項目を資料で予習し、併せて4大文明について予習すること。 突然変異による栽培作物の品種改良についてトウモロコシ、大豆、麦、稲の品種改良について復習。
6回	学習内容 予習 復習	遺伝子組換え(GMO)とゲノム編集の概要とGMOの受容について。 教員から提示された予習項目は資料を収集し予習する。GMOやゲノム編集について予習。 ゲノム編集は短期間に新しい品種を作り出せるが、その問題点を復習すること。
7回	学習内容 予習 復習	グーテンベルクの活版印刷の発明と第1次情報革命、紙の発明から印刷機による情報共有効果。 活版印刷機は人類にどのような影響を与えたか、併せてルネッサンスの3大発明についても予習する。 情報の複製は手書き、木版、活版と進化し大量短期間に復習が及ぼした効果について事例を復習。
8回	学習内容 予習 復習	動力の科学(1) 畜力から内燃機関、電動モータと第1次、第2次産業革命と社会変化について。 教員が提示した予習項目は調べ予習すること、イギリスの綿工業と工場制生産について予習。 蒸気機関の発明と第1次産業革命及び、市民生活への影響について復習する。
9回	学習内容 予習 復習	動力の科学(2) 内燃機関及び電動モータの発明と第2次産業革命。 オットーサイクル、ファラデーの電磁誘導の発見及び電動モータや発電機について予習する。 電気動力の出現が工場のライン生産を誕生させ、大量生産大量消費に至る経過を復習する。
10回	学習内容 予習 復習	エネルギー革命の変遷、薪炭から石炭へ、石炭から石油・原子力、再生可能エネルギーへの期待。 第1次から第3次エネルギー革命までの科学技術について予習する。 化石エネルギーの大量消費と温暖化効果ガスによる平均気温の上昇について復習する。
11回	学習内容 予習 復習	X線から原子力エネルギーまでの自然科学、電力の安定供給とエネルギーミックス。 教員から提示された予習項目を予習すること、核分裂と熱エネルギー利用について予習する。 原子力発電システムについて復習し、メリット、デメリットについて復習する。LCAによる比較を復習。
12回	学習内容 予習 復習	ボルタの電池からリチウムイオン電池まで、電池の自然科学を学習する。 教員から提示された予習項目を資料で予習する。電池の種類について予習する。 スマートグリッドによる電力の最適管理、蓄電システムとET革命などについて復習する。
13回	学習内容 予習 復習	コンピュータの科学、バベジの階差機関からPCまで、ノイマン方式から量子コンピュータまで。 教員から提示された予習項目を資料で予習し、併せて第3次産業革命とコンピュータの役割を予習。 コンピュータの歴史とチューリング、シャノン、ノイマンらの主要業績を復習する。
14回	学習内容 予習 復習	インターネットの歴史、Webの発明、情報通信ネットワークの普及とコミュニケーション革命。 インターネットのプロトコルの特徴についてパケット通信、IPアドレスなどを予習する。 インターネットビジネスの利点、欠点について復習する。
15回	学習内容 予習 復習	人工知能(AI)と未来科学、人口増加と水・エネルギー・食料問題、ローマクラブの成長の限界。 教員から提示された予習項目を資料で予習し、併せて成長の限界について予習する。 生物多様性や持続的社会のために、生活スタイルをどのように変えれば良いのか考えてみよう。

科目名	人文学と人間（日本語入門Ⅰ）			科目コード	0040	
英文名	Introduction to Cultural Sciences (Introduction to Japanese Linguistics Ⅰ)			科目区分	【共通教養科目】 基礎科目(必修)	
担当教員	伏見 親子		教員コード	121	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・2時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input checked="" type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探究する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	西洋思想・東洋思想・日本思想に基づくそれぞれの文化を、特に文学と美術を通して概観する。日本文化はそれぞれの文化の影響のもとに発展してきたので、外国文化の日本文化への影響という観点からの講義となる。					
授業の狙い・到達目標	洋の東西を問わず、古代から現代に至る、人文学に対する幅広い教養を得ることが目標である。日本文化が、古代は東洋(特にインドと中国)の、戦国時代を経て明治維新以降は西洋(とアメリカ)の影響を受けて発展してきたことを理解してほしい。					
授業内容のレベル・関連科目	「自然科学と人間」、「社会科学と人間」、「人文学と人間」で一体となって、大学生としての広範な教養への入門となっている。					
授業外学習(予習・復習)	人文学全般にわたる講義なので、思想史、哲学書、新聞の文芸欄などに目を通しておくこと			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間	
使用教科書	プリント教材を配付する。					
参考書・その他教材	授業で指導する。できれば、百科事典アプリのついた電子辞書を持っていくこと					
課題に対するフィードバック	レポート小試験提出後、コメントをつけて返却する。					
成績評価方法	レポート小試験70%、授業への積極的な関与を貢献度として30%、で評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	レポート小試験は、必ず遅れず提出すること。遅れて提出した場合は、減点対象となる。授業途中での退席は早退とみなす。やむを得ない場合は、教員の許可を得て学籍番号を告げること					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問は、原則的に教員の@aikoku-u.orgアドレスへのメール、または教員の指示した連絡方法で受け付ける。件名に科目名、曜日・時限、本文に学籍番号、氏名を必ず記載すること					

授業スケジュール

人文学と人間(日本語入門Ⅰ)

1回	学習内容 予習 復習	西洋の思想 1 シラバスの授業概要と授業の目標をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと
2回	学習内容 予習 復習	西洋の思想 2 事前に配付した資料を、事典を引いてよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと
3回	学習内容 予習 復習	東洋の思想 1 事前に配付した資料を、事典を引いてよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと
4回	学習内容 予習 復習	東洋の思想 2 事前に配付した資料を、事典を引いてよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと
5回	学習内容 予習 復習	日本の思想 1 事前に配付した資料を、事典を引いてよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと
6回	学習内容 予習 復習	日本の思想 2 事前に配付した資料を、事典を引いてよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと
7回	学習内容 予習 復習	日本文学 1 事前に配付した資料を、事典を引いてよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと
8回	学習内容 予習 復習	日本文学 2 事前に配付した資料を、事典を引いてよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと
9回	学習内容 予習 復習	西洋文学 1 事前に配付した資料を、事典を引いてよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと
10回	学習内容 予習 復習	西洋文学 2 事前に配付した資料を、事典を引いてよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと
11回	学習内容 予習 復習	日本美術 1 事前に配付した資料を、事典を引いてよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと
12回	学習内容 予習 復習	日本美術 2 事前に配付した資料を、事典を引いてよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと
13回	学習内容 予習 復習	西洋美術 1 事前に配付した資料を、事典を引いてよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと
14回	学習内容 予習 復習	西洋美術 2 事前に配付した資料を、事典を引いてよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと
15回	学習内容 予習 復習	授業進度の調整 これまでに配付した資料を、事典を引いてよく読んでおくこと レポートの課題を仕上げること

科目名	論理と表現（日本語入門Ⅱ）			科目コード	0050		
英文名	Logic and Rhetoric (Introduction to Japanese Linguistics Ⅱ)			科目区分	【共通教養科目】 基礎科目(必修)		
担当教員	佐久間 直人		教員コード	148		単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日・1時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input checked="" type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探究する		<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	人類は他者に情報を伝達する能力によって発展してきたといつて過言ではない。情報を正確に伝達するためには、論理的に考える能力と、適切に表現する能力が大切である。本講義では、これら2つの能力を育むために必要な知識・技術を提供し、一緒に実践し、フィードバックを与える。						
授業の狙い・到達目標	1)論理的な思考力、伝達したい情報の構成力を身につけること。 2)その思考を文章で表現する技術を身につけること。						
授業内容のレベル・関連科目	木下是雄著「理科系の作文技術」は大学生が文章力を身につけるためのスタンダードな本とされている。この本の文章表現と構成に関するパートを理解できるレベルを目指したい。						
授業外学習(予習・復習)	シラバスを読んで予習復習を行うこと。毎回の授業で詳しい指示を出すので、よく聞いておくこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	指定しない。必要に応じて資料を配布する。						
参考書・その他教材	木下是雄『理科系の作文技術』中公新書						
課題に対するフィードバック	授業中に小レポート、小テストを行い、その内容や出来を受けて、後の授業で理解を補強するための解説を行う。						
成績評価方法	期末試験(40%)、レポート・授業内の課題(40%)、授業への貢献度(20%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	到達目標に対して学習がどのくらい進んだかについて、本学の学業成績判定に関する規程の基準に従って評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	「単位を取ること」が目標ではなく、「文章で人に情報を伝える能力を身につけること」が目標という意識をしっかりと持ち、主体的に取り組むことが求められる。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし。						
担当教員への連絡方法	授業の前後に教員に直接声をかけると、最も早い対応が期待できる。質問はメールでも受け付ける。(sakuma@aikoku-u.org)						

授業スケジュール

論理と表現(日本語入門Ⅱ)

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス:授業の内容、進め方などについて学ぶ。 シラバスをよく読んでおく。 推薦した参考書や、類する書籍を探してみる。
2回	学習内容 予習 復習	論理的であるとはどのようなことか理解する。 前回配布された資料をよく読みなおしてから授業に臨むこと。 授業内容を簡潔にまとめた小レポートを作成する。
3回	学習内容 予習 復習	文章で物事を伝えるために必要な準備について学ぶ。 前回の授業で紹介した論理的誤謬の例と、それに対する正しい説明を用意しておく。 提示されたテーマの候補から1つを選び、授業内容に従って文章作成の準備をする。
4回	学習内容 予習 復習	文章全体を設計する方法を学ぶ ①全体の流れの作り方を理解する 参考資料をよく読んでおく。 授業内容を簡潔にまとめた小レポートを作成する。
5回	学習内容 予習 復習	文章全体を設計する方法を学ぶ ②パラグラフを理解する 参考資料をよく読んでおく。 第3回で選んだテーマについて、パラグラフを構成要素として全体の流れを考える。
6回	学習内容 予習 復習	文章全体を設計する方法を学ぶ ③実践してみる 文章全体の構成要素としての「パラグラフ内容(トピック・センテンス)」を用意しておく。 文章全体の設計を完成させる。
7回	学習内容 予習 復習	文章の設計図についてのフィードバックを受け、これまでのおさらいをする。 文章全体の設計を完成させておくこと。 フィードバックを参考に文章の設計図を修正する。
8回	学習内容 予習 復習	各文での表現方法を学ぶ ①事実と意見の区別と、主張の仕方 作成済みのトピック・センテンスを補足・説明する内容を用意しておく。 文章の設計図の各パラグラフを、事実と主張で膨らませる。
9回	学習内容 予習 復習	各文での表現方法を学ぶ ②文を作る際のポイント 各パラグラフに書くべき内容を用意しておく。 授業で学んだポイントに従って、自分の書いた文章を修正する。
10回	学習内容 予習 復習	各文での表現方法を学ぶ ③実践してみる 文章全体の設計図、パラグラフ、文の修正版をそろえておく。 文章を完成させ、提出する。
11回	学習内容 予習 復習	論理的な読解力を身につける。 これまでの授業で扱った論理的な文章執筆のポイントをおさらいしておく。 時事コラムや新聞の社説を読み、要点をまとめる。
12回	学習内容 予習 復習	提出した文章についてのフィードバックを受け、これまでのおさらいをする。 自分の書いた文章をよく読みなおしておく。 フィードバックを参考に文章を修正する。
13回	学習内容 予習 復習	小論文と科学論文の構成を理解する。 修正した自分の文章に対して、フィードバックやこれまでの授業内容の当てはまりを確認する。 ニュース等を見て、そのテーマで小論文を書くつもりで構成を考えてみる。
14回	学習内容 予習 復習	「授業レポート」「小論文」「科学論文」とは異なる文章表現法を学ぶ。 これまでに読んだ小説等の文芸作品で、好きな表現を探して集めておく。 試験の準備やレポート執筆をする。
15回	学習内容 予習 復習	まとめ:文章で論理的に情報を伝える方法について、総括的に振り返る。 これまでの授業内容の要点をまとめておく。 試験の準備やレポート執筆をする。

科目名	情報基礎演習-1 情報基礎演習-2		科目コード	0060 0061	
英文名	Introduction to Information Processing		科目区分	【共通科目】 コンピュータ利用科目(必修選択科目)	
担当教員	呉 薫		教員コード	157	単位数 2単位
開講期間	前期	曜日・時限	演習-1 → 火曜日・3時限 演習-2 → 水曜日・2時限		授業形態 演習
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける	◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	情報基礎演習を通して、コンピュータ(PC)を活用するための基礎的な知識と技能を習得する。Windows環境でのパソコンの基本操作、文字の入力(タイピング)、フォルダの作成、Word、Excel、Power Pointによるファイルの作成と基本操作を学ぶ。				
授業の狙い・到達目標	①コンピュータ(PC)の基本操作ができる。②Wordで日本語の入力と簡単な文章の作成ができる。③Excelの基本的な機能を理解する。④PowerPointの基本的な機能と可能性を理解する。				
授業内容のレベル・関連科目	大学の勉学や社会生活において必要不可欠なコンピュータ(PC)の基礎技能を身につける。				
授業外学習(予習・復習)	予習:授業の計画を事前に確認して、操作の手順について積極的に予習に取り組む。復習:教科書などを確認しながら、授業で操作した内容を身につけるように振り返る。		授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間	
使用教科書	実務出版企画開発部編著『30時間でマスター Office2019』美教出版(2019)				
参考書・その他教材	留学生(副読本):楳村麻里子等著『留学生のためのかんたんWord入門』技術評論社(2018)				
課題に対するフィードバック	特になし。授業で演習課題を出し、その場で操作の練習をする。				
成績評価方法	①パソコン(PC)の基本操作スキル(20%)、②日本語入力の課題(30%)、③Excelで簡単な表の作成(30%)、④平常点(20%)				
成績評価基準	①パソコン(PC)の基本操作がスムーズに行えること、②WordとExcelを用いて課題作成ができることなどについて、本学の「学業成績判定に関する規定の基準」に基づき、到達度を総合的に評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	授業中、課題演習を行うため、必ず出席し、遅刻しないこと。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	質問や相談など、メール(wu@aikoku-u.org)あるいは対面で対応する。メールの場合、件名に科目名・曜日・時限、本文に学生番号・氏名を必ず記載する。対面の場合、授業終了後あるいはオフィスアワー(新年度に掲示)に対応する。				

授業スケジュール

情報基礎演習

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス(学習のポイントを概説し、達成目標を確認する。) シラバスを事前に確認する。 配布資料を再度確認し、学習のポイントと目標を明確にする。
2回	学習内容 予習 復習	パソコン(PC)の基本操作、フォルダとファイルの概念 前回の授業での配布資料を事前に学習する。 演習した課題を振り返り、基本操作のポイントを覚える。
3回	学習内容 予習 復習	キーボードで入力、タイピングの練習 前回の授業での配布資料を熟読し、キーボードの特徴を覚える。 キーボードの特徴、タイピングの要領を復習して、覚える。
4回	学習内容 予習 復習	日本語の文字の入力方法(ローマ字)、漢字の変換 日本語のローマ字表記 演習した課題を振り返り、基本操作のポイントを整理する。
5回	学習内容 予習 復習	日本語の文字の入力(50字程度) 前回の授業での配布資料をベースに、かな漢字変換のポイントを予習する。 演習した課題を振り返り、基本操作のポイントを覚える。
6回	学習内容 予習 復習	Wordの基本操作、基本編集機能 教科書の指定ページを予習する。 教科書の指定ページを復習し、基本操作のポイントを覚える。
7回	学習内容 予習 復習	Wordの基本操作、基本編集機能。第2回～第6回までの演習課題を復習する。 教科書の指定ページを予習する。 これまでの配布資料、教科書の指定ページを復習する。
8回	学習内容 予習 復習	コンピュータ(PC)の基本操作、Wordで日本語入力のテスト 教科書の指定ページを予習する。 これまでの配布資料、教科書の指定ページを復習する。
9回	学習内容 予習 復習	Wordでビジネス文章を作成してみる。 教科書の指定ページを予習する。 教科書の指定ページを復習する。
10回	学習内容 予習 復習	前半(第2回から第9回)の復習、練習 教科書の指定ページを予習する。 教科書の指定ページを復習し、基本操作のスキルを身につける。
11回	学習内容 予習 復習	Excelの基本操作、表の作り方 教科書の指定ページを予習する。 教科書の指定ページを復習し、基本操作のポイントを覚える。
12回	学習内容 予習 復習	Excelの基本操作、表の作り方の練習 教科書の指定ページを予習する。 教科書の指定ページを復習し、基本操作のポイントを覚える。
13回	学習内容 予習 復習	PowerPointの基本操作と機能の紹介 教科書の指定ページを予習する。 教科書の指定ページを復習し、基本操作のポイントを覚える。
14回	学習内容 予習 復習	後半(第11～13回)を中心とした復習、練習 教科書の指定ページを予習する。 教科書の指定ページを復習し、基本操作のスキルを身につける。
15回	学習内容 予習 復習	総括 ビジネスで役立つ資料の作成、Excelで表の作成のテスト これまでの配布資料、教科書の指定ページを復習する。 これまでの配布資料、教科書全体を復習する。

科目名	PBL演習（基礎演習）			科目コード	0070	
英文名				科目区分	【共通教養科目】 基礎科目（必修）	
担当教員	日坂 彰		教員コード	137	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・1時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input checked="" type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	本授業はPBL(問題解決型学習)型授業である。ここでは、「学習者が問題を発見し、解決の見通しをつけて実行し、何らかの形で結論を得るための学習法」を共通する要素とみなし、ProblemとProjectの双方を意識した演習形式で進行する。					
授業の狙い・到達目標	グループで課題を解決するための演習である。この演習を通して仲間と協力して問題の解決を図っていく協働スキルとPBLのフレームワークを習得する。					
授業内容のレベル・関連科目	PBL、AL(Active Learning)の基礎					
授業外学習(予習・復習)	予習は資料を読み、用語を辞典、事典で調べておくこと。復習は学習内容を定着させ、未理解事項を残さないこと。各回に特化した予習、復習は授業スケジュールを参照のこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間	
使用教科書						
参考書・その他教材	SDGs					
課題に対するフィードバック	教員はファンリテーターとして、適宜学習促進の役割を果たす。					
成績評価方法	グループ内での活動状況(貢献と内容及び発表)(70%)、授業態度(30%)で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	普段より新聞、テレビ、インターネット等を通じて、対象課題に関心を向けておくこと。グループワークは、基本的にGSE Classroomをプラットフォームとする。集合して作業を行う必要がある場合には、厳に三密を避けるなど感染症対策に留意すること。					
科目に関連した教員の実務経験						
担当教員への連絡方法	本学 G Suite for Education Gmail:anissaka@aikoku-u.org					

授業スケジュール

1回	学習内容 予習 復習	この演習の目的 — PBL(問題解決型学習)とは シラバスを熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 PBLの事例について調査し、まとめておくこと。
2回	学習内容 予習 復習	問題発見と認識(1) — グループ毎に取り組み問題発見と認識 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。
3回	学習内容 予習 復習	問題発見と認識(2) — グループ毎に取り組み問題発見と認識 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。
4回	学習内容 予習 復習	問題発見と認識(3) — グループ毎に取り組み問題発見と認識 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。
5回	学習内容 予習 復習	問題発見と認識(4) — グループ毎に取り組み問題発見と認識 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。
6回	学習内容 予習 復習	問題発見と認識(5) — グループ毎に取り組み問題発見と認識 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。
7回	学習内容 予習 復習	グループ決定と計画作成 — 各グループ毎に作業手順や役割分担の決定 自分の希望テーマを明確にしておく。 GSE Classroomでグループ内コミュニケーションが図れることを確認する。
8回	学習内容 予習 復習	原因調査と分析(1) — 調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析 グループ毎に調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析 グループ毎に調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析
9回	学習内容 予習 復習	原因調査と分析(2) — 調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析 グループ毎に調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析 グループ毎に調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析
10回	学習内容 予習 復習	原因調査と分析(3) — 調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析 グループ毎に調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析 グループ毎に調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析
11回	学習内容 予習 復習	解決方法の策定(1) — 立案、議論、検証、結論をまとめる グループ毎に立案、議論、検証、結論をまとめる グループ毎に立案、議論、検証、結論をまとめる
12回	学習内容 予習 復習	解決方法の策定(2) — 立案、議論、検証、結論をまとめる グループ毎に立案、議論、検証、結論をまとめる グループ毎に立案、議論、検証、結論をまとめる
13回	学習内容 予習 復習	解決方法の策定(3) — 立案、議論、検証、結論をまとめる グループ毎に立案、議論、検証、結論をまとめる グループ毎に立案、議論、検証、結論をまとめる
14回	学習内容 予習 復習	発表と評価 — 各グループの発表と評価(1) グループ毎に発表準備をする 発表の振り返りをする。
15回	学習内容 予習 復習	発表と評価 — 各グループの発表と評価(2) グループ毎に発表準備をする PBLのフレームワークを定着させる。

科目名	心理学基礎（心理学概論Ⅰ）			科目コード	0080	
英文名	Introduction to Psychology			科目区分	【共通教養科目】 基礎科目（必修）	
担当教員	原島 雅之		教員コード	142	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・5時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	「心」は自分にとっても身近で明らかなるものであるように思える一方で、考えれば考えるほど複雑で難しいもののようにも思える。心理学という学問において、そのような「心」に対してどのようにアプローチを行ってきたのか、様々な分野の代表的な知見を紹介していく。					
授業の狙い・到達目標	この講義を通して、どのようにして心を科学的に扱うことができるのかについて学ぶとともに、自分自身や身の回りの他者、日常における様々な問題について心理学的視点から捉えることができるようになることを目指す。					
授業内容のレベル・関連科目	心理学関連科目において入門的な位置づけの授業となる。この授業を「入口」として、その後のより専門的な学習につなげていってほしい。					
授業外学習（予習・復習）	予習として毎回の授業の前に教科書の該当する章に目を通しておくこと。復習としては、授業内容と自分の日常生活との関わりについて考え、課題の提出に備えること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間	
使用教科書	山田一成・谷口明子（編）『心理学の基礎』八千代出版					
参考書・その他教材	授業の際に適宜紹介あるいは配布を行う。					
課題に対するフィードバック	提出してもらった課題等についてのフィードバックは各回の授業において適宜行う。					
成績評価方法	定期試験（70%）、課題提出など（30%）によって総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日常生活における自分や身の回りの他者の心のはたらきに関心を持つことが求められる。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	harashima@aikoku-u.org					

授業スケジュール

心理学基礎（心理学概論Ⅰ）

1回	学習内容	ガイダンスー心理学とは何か
	予習	シラバスを読み、授業の概要等について確認しておくこと
	復習	授業の目的や内容について自分なりに整理し、その後の学習の心構えを作っておくこと
2回	学習内容	感覚の特徴、知覚の成り立ち、様々な錯視
	予習	テキストの1章を読んでおくこと
	復習	学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
3回	学習内容	注意のはたらき、注意と情報処理段階
	予習	事前に配布する資料を読んでおくこと
	復習	学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
4回	学習内容	記憶のしくみ、記憶の再構成的性質
	予習	テキストの2章を読んでおくこと
	復習	学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
5回	学習内容	感情のはたらき、感情の生得性
	予習	テキストの3章を読んでおくこと
	復習	学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
6回	学習内容	思考ー推論と意思決定、知能とは何か
	予習	テキストの4章を読んでおくこと
	復習	学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
7回	学習内容	条件づけと様々な学習
	予習	テキストの5章を読んでおくこと
	復習	学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
8回	学習内容	動機づけ（モチベーション）、目標の達成
	予習	テキストの6章を読んでおくこと
	復習	学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
9回	学習内容	発達のとらえ方、発達支援
	予習	テキストの7章を読んでおくこと
	復習	学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
10回	学習内容	パーソナリティ（性格）の諸理論と測定
	予習	テキストの8章を読んでおくこと
	復習	学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
11回	学習内容	社会的認知ー自分や他者の捉え方
	予習	テキストの9章を読んでおくこと
	復習	学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
12回	学習内容	社会的影響ー社会的動物としてのヒト、社会的促進や同調
	予習	テキストの10章を読んでおくこと
	復習	学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
13回	学習内容	心のケアーカウンセリング、認知行動療法
	予習	テキストの11章を読んでおくこと
	復習	学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
14回	学習内容	心の健康とストレス
	予習	テキストの12章を読んでおくこと
	復習	学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
15回	学習内容	まとめー「心のはたらき」とは何か
	予習	ここまでの学習内容を振り返り、自分なりに整理しておくこと
	復習	人間の「心のはたらき」とはどのようなものかについて考えること

科目名	生活科学入門			科目コード	0090		
英文名	Introduction to Living Science			科目区分	【共通科目】(必修科目)		
担当教員	市川 遥夏		教員コード	134		単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・4時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探求する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	食と生活を中心とする生活科学入門で、内容は栄養素とそれらの機能、機能的食品、特定保健用食品、食中毒、食品添加物、遺伝子組み換え食品と安全性について全般的に解説する。また食と環境問題には『沈黙の春』、『奪われし未来』について残留農薬、環境ホルモンとの関連性も解説する。						
授業の狙い・到達目標	現代の日常生活のなかに食と生活の重要性に鑑み、健康の保持・増進をはかり、さらに疾病予防等を目標とする。食生活に興味を持ち、食生活のみならず健康への影響を理解できるようにする。自分の食生活を見直し、より健康な食生活を営む力を身につける。						
授業内容のレベル・関連科目	日常の生活を通じて、食と生活について関心を持ち、科学的な面からの理解が大切である。日本及びアジアの食文化を併せて学習することが望ましい。						
授業外学習(予習・復習)	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認して予習に取り組む。授業後、各回の講義内容を十分に復習し、専門用語や内容について自主的に調べ、理解を深める。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	教科書を使用せず、資料を配布。						
参考書・その他教材	池田彩子ら編『基礎栄養学』東京化学同人；一色賢司編『食品衛生学』東京化学同人；上野川修一ら編『食品の科学』東京化学同人						
課題に対するフィードバック	小テストは、翌週の授業時に解答・解説する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。						
成績評価方法	テスト(70%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	私語・携帯は厳禁。不明な点は講義終了後に教員に質問する。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし。						
担当教員への連絡方法	オフィスアワー：木曜日昼休み(研究室：2号館2階4号室) 質問はメールでも受け付ける(ichikawa@aikoku-u.org)						

授業スケジュール

生活科学入門

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス、授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておくこと。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深めること。
2回	学習内容 予習 復習	食と生活、栄養概論について学ぶ。 必須微量元素の種類について調べること。 授業プリントを用いて授業内容について振り返り、必須微量元素について理解を深める。
3回	学習内容 予習 復習	食と生活、ビタミンの吸収・代謝・過不足症について学ぶ。 ビタミンについて調べること。 授業プリントを用いて授業内容について振り返り、ビタミンなどについて理解を深める。
4回	学習内容 予習 復習	食と生活、機能的食品、特定保健用食品について学ぶ。 機能的食品、特定保健用食品の分類について調べること。 授業プリントを用いて授業内容について振り返り、栄養機能食品について理解を深める。
5回	学習内容 予習 復習	食と生活、バランスのとれた食生活について学ぶ。 五大栄養素について調べること。 授業プリントを用いて授業内容について振り返り、理解を深める。
6回	学習内容 予習 復習	食と生活、健康食品、ダイエット食品について学ぶ。 サプリメントについて調べる。 授業プリントを用いて授業内容について振り返り、健康食品などについて理解を深める。
7回	学習内容 予習 復習	食品衛生、食中毒Ⅰについて学ぶ。 食中毒の分類について調べること。 授業プリントを用いて授業内容について振り返り、理解を深める。
8回	学習内容 予習 復習	食品衛生、食中毒Ⅱについて学ぶ。 身近な食中毒例について調べること。 授業プリントを用いて授業内容について振り返り、食中毒の予防・対策について理解を深める。
9回	学習内容 予習 復習	食品衛生、食品添加物、食品保存法について学ぶ。 どんな食品添加物があるのかについて調べること。 授業プリントを用いて授業内容について振り返り、食品添加物・保存法について理解を深める。
10回	学習内容 予習 復習	バイオテクノロジーⅠについて学ぶ。 青いバラについて調べること。 授業プリントを用いて授業内容について振り返り、遺伝子組み換えについて理解を深める。
11回	学習内容 予習 復習	バイオテクノロジーⅡについて学ぶ。 遺伝子組み換えの方法について調べること。 授業プリントを用いて授業内容について振り返り、バイオテクノロジーについて理解を深める。
12回	学習内容 予習 復習	遺伝子組み換え食品の安全性について学ぶ。 遺伝子組み換え食品について調べること。 授業プリントを用いて授業内容について振り返り、遺伝子組み換え食品について理解を深める。
13回	学習内容 予習 復習	食と環境、残留農薬(沈黙の春)について学ぶ。 『沈黙の春』およびその作者について調べること。 授業プリントを用いて授業内容について振り返り、残留農薬について理解を深める。
14回	学習内容 予習 復習	食と環境、環境ホルモン(奪われし未来)について学ぶ。 『奪われし未来』およびその作者について調べること。 授業プリントを用いて授業内容について振り返り、環境ホルモンについて理解を深める。
15回	学習内容 予習 復習	まとめ 今までの授業内容について見直し、復習をしていくこと。 授業内容について理解を深める。

科目名	社会科学と人間（環境学入門）			科目コード	0100		
英文名	Intoroduction to Social Sciences (Intoroduction to Environmental Studies)			科目区分	【共通教養科目】 基礎科目（必修）		
担当教員	中村 塑		教員コード	154		単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・1時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	○	5.学習の過程で発見した課題を探求する		○ 6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	社会科学は社会の真理を探究する学問であり、ここには法学や政治学、経済学、歴史学などが含まれる。社会科学の研究成果を踏まえて、わたしたちはどのように生きていけばよいのかを考える。						
授業の狙い・到達目標	社会科学の特長を理解し、基本的な知識を身につける。 身近なところから国際的レベルにまで存在する社会の諸問題に向き合う。						
授業内容のレベル・関連科目	社会科学に関する科目としては、入門レベルである。したがって高等学校等で学んだ社会科を履修前に振り返ってほしい。						
授業外学習（予習・復習）	教科書に沿って授業を進める。したがって予習として指定箇所を事前に読み、復習として授業後に再度読むこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	井手英策・宇野重規・坂井豊貴・松沢裕作『大人のための社会科』（有斐閣）2017年						
参考書・その他教材	なし						
課題に対するフィードバック	授業の中でコメントする。						
成績評価方法	レポートと定期試験によって評価する。具体的には、レポート30%、定期試験70%とする。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	テレビのニュースや新聞記事にも関心を持つこと。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org 研究室:2号館2階研究室7 TEL:043-424-4892						

授業スケジュール

社会科学と人間(環境学入門)

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2回	学習内容 予習 復習	GDPについて 教科書第1章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
3回	学習内容 予習 復習	勤労について 教科書第2章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
4回	学習内容 予習 復習	時代について 教科書第3章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
5回	学習内容 予習 復習	多数決について 教科書第4章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
6回	学習内容 予習 復習	運動について 教科書第5章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
7回	学習内容 予習 復習	私について 教科書第6章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
8回	学習内容 予習 復習	前半で学習したことの確認 第1回から第7回までの授業で学んだことについて、教科書・ノート等を見直すこと 教員の指示に従って、レポートを作成すること
9回	学習内容 予習 復習	公正について 教科書第7章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
10回	学習内容 予習 復習	信頼について 教科書第8章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
11回	学習内容 予習 復習	ニーズについて 教科書第9章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
12回	学習内容 予習 復習	歴史認識について 教科書第10章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
13回	学習内容 予習 復習	公について 教科書第11章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
14回	学習内容 予習 復習	希望について 教科書第12章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
15回	学習内容 予習 復習	定期試験に向けて これまでの授業で学んだことを振り返ること 教員の指示に従って、定期試験対策をすること

科目名	文化人類学入門			科目コード	0110		
英文名	Introduction to Cultural Anthropology			科目区分	【共通科目】(必修科目)		
担当教員	山崎 寿美子	教員コード	147	単位数	2単位		
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・2時限	授業形態	講義		
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	各回で具体例をあげながら、私たちの「あたりまえ」を捉えなおす。そして、慣習や価値観が異なる他者をどのように理解できるのかについて考える。						
授業の狙い・到達目標	文化人類学の基本的な考え方を学び、身近なトピックから異文化への関心を深めるとともに、私たちが普段あまり意識することのない自文化の慣習や価値観を、客観的に捉えなおすことができるようになる。内容を覚えるのではなく、履修生それぞれが自分なりに意見をもてるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	関連する論文等を読解できる日本語力および英語力を必要とする。ある事象について自分なりの意見を書いたり述べたりできる。(関連科目)文化人類学概論						
授業外学習(予習・復習)	日頃から、ある物事に対する一般的な見方にとらわれずに、自分の意見をもっておくよう努めること。また、授業の冒頭に小テストを行なう場合があるため、配布資料やノートを復習しておくこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	指定しない。						
参考書・その他教材	授業ごとに資料を配布するとともに、テーマに合わせて随時参考文献を指示する。						
課題に対するフィードバック	各回に出した課題に対しては、翌週の授業でコメントをする。						
成績評価方法	小テスト(30%)、期末試験(70%)で評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に参加し、それぞれのテーマについて深く考えること。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。質問の際は、科目名、学籍番号、氏名を必ず記載すること。						

授業スケジュール

文化人類学入門

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス—授業の目的、内容、進め方について説明する。 シラバスを読み、授業の内容についておおまかに理解しておくこと。 授業の趣旨を理解し、今後の取り組みについてイメージをもっておくこと。
2回	学習内容 予習 復習	異文化とカルチャーショックについて考える。 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
3回	学習内容 予習 復習	人類学の対象とフィールドワークについて学ぶ。 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
4回	学習内容 予習 復習	世界における挨拶の多様性について学ぶ。 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
5回	学習内容 予習 復習	世界の発酵食文化について学ぶ。 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
6回	学習内容 予習 復習	食に関する決まりごと—食物タブー 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
7回	学習内容 予習 復習	物事の見方の転換①自然はつくられる 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
8回	学習内容 予習 復習	物事の見方の転換②死の捉え方 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
9回	学習内容 予習 復習	物事の見方の転換③友人、仲間とはなにか 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
10回	学習内容 予習 復習	『うしろめたさの人類学』(松村圭一郎著)を読み、仲間とは何かの考察を深める。 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、課題に取り組み提出する。
11回	学習内容 予習 復習	贈与と経済的交換について学ぶ。 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
12回	学習内容 予習 復習	物事の見方の転換④仕事とはなにか 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
13回	学習内容 予習 復習	『物乞いという仕事』(嶋田ミカ著)を読み、第9回から第12回の授業内容を発展的に考える。 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
14回	学習内容 予習 復習	『仕事的人类学』(中谷文美他編)を読み、仕事を多角的に捉えなおす。 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
15回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめを行なう。 配布資料を読み返し、全ての回の授業内容を振り返っておくこと。 全体を振り返り、授業の論点をまとめておく。

科目名	社会福祉論			科目コード	0120		
英文名	Social Welfare			科目区分	【共通科目】(必修科目)		
担当教員	赤羽根 和恵		教員コード	152		単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input checked="" type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探究する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	社会福祉制度の概要を学ぶ。近年、急激に進む少子・高齢社会への対応として、福祉に関する各サービスの利用方法やサービスの種類等の制度改正が行われている。社会福祉への理解を深めるために、高齢者介護サービス、保育・子育て支援サービス中心にトピックも取り上げる。						
授業の狙い・到達目標	社会福祉の理念と意義について学び、社会福祉の対象を知る。ライフステージと社会福祉制度の関わりを理解する。今後の生活上の課題解決に活用することができる。						
授業内容のレベル・関連科目	日常生活を通じて、福祉について関心を持ち、自分の意見をまとめておくことが大事である。社会保障論を併せて学習することが望ましい。						
授業外学習(予習・復習)	事前学習:社会福祉に関するニュースに関心を持ち、専門用語(キーワード)を調べる。 事後学習:授業で学んだことを復習して、次の授業に備える。		授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間			
使用教科書	毎回、資料を配布する。						
参考書・その他教材	大久保秀子『新社会福祉とは何か(第3版)』中央法規 森田明美編著『よくわかる女性と福祉』ミネルヴァ書房						
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、良い点や注意点などについて、若干のコメントを記入して返却をする。最終時に振り返りの時間を設け、全体に対するフィードバックを行う。						
成績評価方法	授業参加度(30%)、中間レポートを(30%)、期末レポートを(40%)として評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	グループワークを実施するため、事前学習をして自分の意見を述べるようにする。遅刻・欠席をせずに参加をすること。						
科目に関連した教員の業務経験	特になし。						
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける(mail to:akabane@aikoku-u.ac.jp) 件名に科目名、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること						

授業スケジュール

社会福祉論

1回	学習内容 予習 復習	「社会福祉論」へのアプローチ シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておく。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深める。
2回	学習内容 予習 復習	現代社会の特質と社会福祉 現代社会の中でどのような福祉が行われているか調べ、理解をしておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
3回	学習内容 予習 復習	社会福祉と社会保障、ノーマライゼーション 日本の社会保障制度を調べ、その意義について理解しておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
4回	学習内容 予習 復習	日本と欧米における社会福祉の歴史、「各国の取り組み」グループワーク 社会福祉の歴史と取組みについて調べてくる。 授業内容について振り返り、理解を深める。
5回	学習内容 予習 復習	社会福祉の法制度 社会福祉に関する法律について調べてくる。 授業内容について振り返り、これをレポートにまとめ提出する。
6回	学習内容 予習 復習	社会福祉の行政機関と財政 社会福祉に関する財政について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
7回	学習内容 予習 復習	ソーシャルワークの概念と展開 ソーシャルワークとは何か調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
8回	学習内容 予習 復習	援助関係の意義とソーシャルワークの価値、「3つのきく」グループワーク ソーシャルワークにおける援助関係について発言できるようにしておく。 授業内容について振り返り、理解を深める
9回	学習内容 予習 復習	貧困問題と生活保護制度、防貧と救貧、ソーシャルネットワーク 現代社会の貧困問題について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
10回	学習内容 予習 復習	高齢者の生活と福祉、入院と入所 高齢者の定義を調べておく。 授業内容について振り返り、これをレポートにまとめ提出する。
11回	学習内容 予習 復習	児童家庭福祉と次世代育成の展開、子どもの権利 子どもが抱える問題について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
12回	学習内容 予習 復習	障がい者の自立と福祉 障がい者の抱える問題について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
13回	学習内容 予習 復習	地域福祉と地域包括ケアシステム 地域福祉とは何か調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
14回	学習内容 予習 復習	テクノロジーの活用、総合福祉の展開、「とりこぼしのない福祉」グループワーク 「とりこぼしのない福祉」とは何か考えて発言できるようにしておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
15回	学習内容 予習 復習	授業の振り返り 近年、話題となっている社会福祉関連のトピックスについて調べておく。 全15回の授業を振り返り、社会福祉についての諸課題をレポートにまとめ提出する。

科目名	経済学概論（現代経済入門）			科目コード	0130		
英文名	Outline of Economics (Introduction to Contemporary Economy)			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻（選択）		
担当教員	中村 塑		教員コード	138	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・1時限	授業形態	講義		
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	<input checked="" type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する		<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	ミクロ経済学は一人ひとりの消費者や一つひとつの企業といったミクロな経済主体から、マクロな市場やそこでの政策効果を分析する学問である。本授業は概論であるため、ミクロ経済学の大枠について解説する。						
授業の狙い・到達目標	ミクロ経済学の基礎を学習し、経済的なものの見方を獲得する。						
授業内容のレベル・関連科目	社会科学に関する科目としては、基礎レベルである。したがって入門レベルの「社会科学と人間」を並行して履修することが望ましい。						
授業外学習（予習・復習）	教科書に沿って授業を進める。したがって予習として指定箇所を事前に読み、復習として授業後に再度読むこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	坂井豊貴著『ミクロ経済学入門の入門』（岩波新書）2017年						
参考書・その他教材	授業の回によってはレジュメ等を配布する。						
課題に対するフィードバック	授業の中でコメントをする。						
成績評価方法	レポートと定期試験によって評価する。具体的には、レポート30%、定期試験70%とする。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	経済に関するニュースに関心を持つこと。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org 研究室:2号館2階研究室7 TEL:043-424-4892						

授業スケジュール

経済学概論（現代経済入門）

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2回	学習内容 予習 復習	無差別曲線について 教科書第1章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
3回	学習内容 予習 復習	予算線と最適化について 教科書第2章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
4回	学習内容 予習 復習	需要曲線について 教科書第3章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
5回	学習内容 予習 復習	供給曲線について 教科書第4章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
6回	学習内容 予習 復習	市場均衡について 教科書第5章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
7回	学習内容 予習 復習	前半で学習したことの確認 第1回から第6回までの授業で学んだことについて、教科書・ノート等を見直すこと 教員の指示に従って、レポートを作成すること
8回	学習内容 予習 復習	外部性について 教科書第6章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
9回	学習内容 予習 復習	農業における外部性について レジュメ等をよく読んで、農業における外部性について概要を理解すること 授業内容を振り返ること
10回	学習内容 予習 復習	独占と寡占 教科書第7章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
11回	学習内容 予習 復習	リスクと保険 教科書第8章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
12回	学習内容 予習 復習	公共財 教科書第9章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
13回	学習内容 予習 復習	再分配 教科書第10章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
14回	学習内容 予習 復習	後半で学習したことの確認 第8回から第13回までの授業で学んだことについて、教科書・ノート等を見直すこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
15回	学習内容 予習 復習	定期試験に向けて これまでの授業で学んだことを振り返ること 教員の指示に従って、定期試験対策をすること

科目名	会計学概論			科目コード	0140		
英文名	Outline of Accounting			科目区分	【共通科目】(必修科目)		
担当教員	呉 蔭		教員コード	157		単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・4時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探求する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	企業会計は、会社の効率的な運営にとって不可欠の事項である。実践的な知識として習得してもらうため、本講義では演習問題を数多くこなしていく。						
授業の狙い・到達目標	本講義では、会計制度の基礎知識の実践的な理解を目指している。会計制度の役割・仕組みを的確に理解することを通して、企業活動の本質を深く理解できるようになることが、本講義の狙いとなる。						
授業内容のレベル・関連科目	ビジネス(企業経営)に関心を持ち、会計諸学を専門的に学ぶための基礎を習得する。 関連科目:簿記ⅠまたはⅡ、簿記演習ⅠまたはⅡ、財務管理論、原価計算論						
授業外学習(予習・復習)	予習:授業の計画を事前に確認して、積極的に予習に取り組む。 復習:教科書などを確認しながら、基礎知識を身につけるように振り返る。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	千代田邦夫(著)『会計学入門(第6版)』中央経済社(2020)						
参考書・その他教材	配布資料						
課題に対するフィードバック	提出された課題を確認してから、翌週の授業時に返却して解答・解説を行う。						
成績評価方法	期末試験(70%)、課題提出(20%)、平常点(10%)						
成績評価基準	普通の課題提出状況、期末試験の結果などを踏まえて、本学の「学業成績判定に関する規定の基準」に基づき、到達度を総合的に評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。 (講義中に行う演習問題には、とりわけその姿勢が不可欠である)						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問や相談など、メール(wu@aikoku-u.org)あるいは対面に対応する。メールの場合、件名に科目名・曜日・時限、本文に学生番号・氏名を必ず記載する。対面の場合、授業終了後あるいはオフィスアワー(新年度に掲示)に対応する。						

授業スケジュール

会計学概論

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス(講義の概要、スケジュール、達成目標などについて説明する。) 事前にシラバスを確認する。 配布資料を復習し、講義の目的、スケジュール、達成目標などを明確にする。
2回	学習内容 予習 復習	会計、企業とは 教科書指定ページを予習する。 教科書指定ページを復習する。
3回	学習内容 予習 復習	複式簿記の原理 教科書指定ページを予習する。 教科書指定ページを復習する。
4回	学習内容 予習 復習	会計制度の論理と体系(1) 配布資料を予習する。 配布資料を復習する。
5回	学習内容 予習 復習	会計制度の論理と体系(2) 配布資料を予習する。 配布資料を復習する。
6回	学習内容 予習 復習	損益計算書のバラダイム、演習問題 教科書指定ページを予習する。 教科書指定ページ、配布資料を復習する。
7回	学習内容 予習 復習	貸借対照表の見方、演習問題 教科書指定ページを予習する。 教科書指定ページを復習する。
8回	学習内容 予習 復習	第2回～第7回の復習、演習問題 教科書指定ページ、配布資料を復習する。 教科書指定ページ、配布資料を復習する。
9回	学習内容 予習 復習	キャッシュ・フロー計算書の読み方、演習問題 教科書指定ページを予習する。 教科書指定ページを復習する。
10回	学習内容 予習 復習	企業会計の基準(企業会計の理論的な仕組み) 教科書指定ページを予習する。 教科書指定ページを復習する。
11回	学習内容 予習 復習	資産の会計(1) 教科書指定ページを予習する。 教科書指定ページを復習する。
12回	学習内容 予習 復習	資産の会計(2) 教科書指定ページを予習する。 教科書指定ページを復習する。
13回	学習内容 予習 復習	経営パフォーマンスの測定と表示、演習問題 教科書指定ページを予習する。 教科書指定ページ、配布資料を復習する。
14回	学習内容 予習 復習	演習問題 教科書指定ページを復習する。 教科書指定ページ、配布資料を復習する。
15回	学習内容 予習 復習	総括、演習問題と解説 教科書指定ページを復習する。 教科書指定ページ、配布資料を復習する。

科目名	国際関係論			科目コード	0150		
英文名	International Studies			科目区分	【共通科目】(必修科目)		
担当教員	梶原 健嗣		教員コード	145		単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・1時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	20世紀、とりわけ戦後の国際関係を政治・経済両分野で的確に理解することをも目的とする。その時、歴史の流れを正確に理解することを重点目標とする。						
授業の狙い・到達目標	政治面では、国連の誕生・役割を正しく理解するために、第1次世界大戦時の国際連盟に遡って講義を行う。政治面では、20世紀の国際政治の大きな特徴だった冷戦を重点学習事項とする。経済面では、ブレトンウッズ体制の形成から変容の過程を米国、アジアを中心に講義する。						
授業内容のレベル・関連科目	内容は、これからのグローバル社会に生きるうえで、不可欠な知識を教授するもの。基礎レベル。関連科目として、「国際協力学」がある。理解に幅と深みが出るので、併せて受講することを勧める。						
授業外学習(予習・復習)	講義では、重要事項をビジュアルで紹介していく。そのURLをたどって当該ページを閲覧することは、発展的な復習として、理解を深めるのに効果的である。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。						
参考書・その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。						
課題に対するフィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。						
成績評価方法	平常点30%、期末テスト70%						
成績評価基準	授業の狙いあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、大学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ?」という問いを大事にしながら学習すること。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし。						
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。						

授業スケジュール

国際関係論

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンス、講義の概要および学習のポイントを概説する。テストの方法も説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返しとともに、左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2回	学習内容 予習 復習	国際政治①、第1次世界大戦から、国際連盟が誕生する(1920)までの歴史を概説する。 第1次世界大戦について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
3回	学習内容 予習 復習	国際政治②、第2次世界大戦の原因と経緯。ヨーロッパ、アジアを中心に概説する。 第2次世界大戦について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
4回	学習内容 予習 復習	国際政治③、第3回講義を踏まえて、国連の仕組みや主要機関を概説する。 第2回、3回講義を中心に、2度の世界大戦の原因を把握しておくこと。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
5回	学習内容 予習 復習	国際政治④、ロシア革命とソ連の成立、冷戦の始まりと展開の基本を概説する。 社会主義国について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
6回	学習内容 予習 復習	国際政治⑤、冷戦下で4つの国が分断国家となった。その歴史的展開を概説する。 4つの分断国家(ドイツ、ベトナム、朝鮮半島、中国)について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
7回	学習内容 予習 復習	国際政治⑥、冷戦崩壊後の国際情勢を、なおも続く国際紛争・テロを中心に概説する。 湾岸戦争、9.11テロ、イラク戦争などを自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
8回	学習内容 予習 復習	国際政治⑦、前半のまとめ。第2回～第7回までの講義をおさらいする。 第2回～第7回までの講義を改めて復習してくる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
9回	学習内容 予習 復習	国際経済①、第2次世界大戦の経済的原因から、ブレトンウッズ体制の意義を理解する。 世界恐慌(1929)について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
10回	学習内容 予習 復習	国際経済②、戦後のアメリカ経済、1970年代のブレトンウッズ体制の変容を概説する。 ベトナム戦争の経済的意義について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
11回	学習内容 予習 復習	国際経済③、中国経済の変容。中国経済の発展の経緯や特徴を概説する。 人民公社の時代、改革開放政策について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
12回	学習内容 予習 復習	国際経済④、開発独裁とアジアの経済成長。韓国を中心に概説する。 開発独裁国家の歩みについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
13回	学習内容 予習 復習	国際経済⑤、プラザ合意(1985)とアジア経済危機(1997)を概説する。 第10回講義、第12回講義を復習してくる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
14回	学習内容 予習 復習	国際経済⑥、後半のまとめ。第9回～第13回までの講義をおさらいする。 第9回～第13回までの講義を改めて復習してくる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
15回	学習内容 予習 復習	全体のまとめ。本講義のまとめと復習を行う。 第8回講義、第13回講義を中心に講義の復習をしていく。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。

科目名	現代社会と女性			科目コード	0160		
英文名	Women & Contemporary Society			科目区分	【共通教養科目】 基礎科目(必修)		
担当教員	速水 智子		教員コード	151	単位数	2単位	
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・2時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する		<input checked="" type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	現代社会は、女性の仕事についての考え方やライフスタイルについての価値観が多様化している。多くの女性たちが活躍できる環境も整いつつある。授業では、女性の活躍を中心に、これまでの女性活動の歴史を学び、個人のエンパワーメントやリーダーシップについて考えていく。						
授業の狙い・到達目標	これまでの社会における女性をめぐる歴史と背景について、自分なりに考えをまとめることができる。また、リーダーシップに関する一般的な理論を学び、これらの知識にもとづいて、自らの人生やエンパワーメントについて考える視点を持つことを狙いとする。						
授業内容のレベル・関連科目	言葉の意味など丁寧に解説していく。また積極的に発言してほしい。関連科目は「ソーシャルビジネス概論」、「女性労働論」を受講することが望ましい。						
授業外学習(予習・復習)	授業の最後に、まとめの復習スライドと次回講義の予習スライドを配布する。これにもとづいて、予習、復習すること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	オリジナルテキストを配布する。						
参考書・その他教材	柴田陽子、『はじめてリーダーになる人の教科書』、中経出版 最新トピックスの記事なども配布する						
課題に対するフィードバック	不定期に「理解度の確認テスト」などをおこない、次の週に解説する。						
成績評価方法	①試験(50%)、②レポート(40%)、③平常点(10%)により評価する。						
成績評価基準	本講義の到達目標である①女性をめぐる歴史と背景、②女性の活躍の可能性の理解度について、本学の成績評価基準に基づき、到達度を総合的に評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	メールや相談など個別に応じますので、遠慮なく申し出てください。創発的な交流と品格ある場を皆で形成していきましょう。必ず出席し、遅刻しないようにしましょう。						
科目に関連した教員の實務経験	起業家、財団理事、NPO法人理事。インターネット民間利用草創期(1995年)に起業家としてITビジネスの事業化をおこない、子育て中の主婦たちとネットワークを介したプロジェクトの開発などおこなってきた経験等を講義の中にも盛り込んでいく。(授業全体にかかわる)						
担当教員への連絡方法	速水智子(はやみずさとこ)hayamizu@aikoku-u.org タイトル、学籍番号、氏名を忘れずに記入しましょう。						

授業スケジュール

現代社会と女性

1回	学習内容 予習 復習	<ガイダンス>授業の進め方、目標の確認、「現代社会と女性」初めの一步 シラバスをあらかじめ読んでおくこと 本授業の目標の確認、授業の進め方などについて振り返ること
2回	学習内容 予習 復習	<歴史>女性をめぐる歴史的経緯(前半) ”予習スライド”を読んでおくこと 授業内容を振り返ること
3回	学習内容 予習 復習	<歴史>女性をめぐる歴史的経緯(後半) ”予習スライド”を読んでおくこと 授業内容を振り返ること
4回	学習内容 予習 復習	<現代社会>女性活躍に関する現状 ”予習スライド”を読んでおくこと 授業内容を振り返ること
5回	学習内容 予習 復習	<現代社会>女性活躍の可能性 ”予習スライド”を読んでおくこと これまでの授業内容についてまとめておくこと
6回	学習内容 予習 復習	<演習>グループディスカッション ”予習スライド”を読んでおくこと 授業内容を振り返ること
7回	学習内容 予習 復習	<女性のエンパワーメント>基礎知識 ”予習スライド”を読んでおくこと 授業内容を振り返ること
8回	学習内容 予習 復習	<女性のエンパワーメント>事例紹介 ”予習スライド”を読んでおくこと 授業内容を振り返ること
9回	学習内容 予習 復習	<女性のエンパワーメント>自分の可能性を考える ”予習スライド”を読んでおくこと これまでの授業内容をまとめておくこと
10回	学習内容 予習 復習	<演習>グループディスカッション 演習の進め方についての資料を読んでおくこと 演習課題についてまとめておくこと
11回	学習内容 予習 復習	<女性のリーダーシップ>リーダーシップ論の基礎知識 ”予習スライド”を読んでおくこと 授業内容を振り返ること
12回	学習内容 予習 復習	<女性のリーダーシップ>事例紹介 ”予習スライド”を読んでおくこと 授業内容を振り返ること
13回	学習内容 予習 復習	<女性のリーダーシップ>自己のリーダーシップについて考える ”予習スライド”を読んでおくこと これまでの授業内容をまとめておくこと
14回	学習内容 予習 復習	<演習>プレゼンテーション 演習の進め方についての資料を読んでおくこと 全体として一番興味のもてたテーマについて、自分なりに考えて記述しておくこと
15回	学習内容 予習 復習	<まとめ>これまでの授業の総括 15回の配布資料全体に目を通すこと 全15回の授業を振り返り、「現代社会と女性」について、自分なりの考えを記述できるようにする